様式第２－１ー７０号

**70　原発性骨髄線維症　　　　　　　　　　　臨床調査個人票 　　　　　　　　　　　　　　　　　 （新規・更新）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ふりがな |  | 性別 | 1.男2.女 | 生年月日 |  年 月 日生（満 　　 歳） |
| 氏名 |  |
| 住所 | 郵便番号電話 （ ）  | 出 生都道府県 |  | 発病時在住都道府県 |  |
| 発病年月 | 　　年 月（満 　　歳） | 初診年月日 |  年月日 | 保険種別 | 1.協 2.組 3.船4.共 5.国 6.後 |
| 身体障害者手帳 | 1.あり（等級 級） 2.なし | 介護認定 | 1.要介護（要介護度　 　） 2.要支援 3.なし　 |
| 生活状況 | 社会活動（1.就労 2.就学　3.家事労働　4.在宅療養　5.入院　6.入所　7.その他（　 　　　））日常生活（1.正常　2.やや不自由であるが独力で可能　3.制限があり部分介助　4.全面介助） |
| 家族歴 | 1.あり 2.なし 3.不明ありの場合(続柄 ) | 受診状況(最近6か月) | 1.主に入院 2.入院と通院半々 3.主に通院（ /月）4.往診あり 5.入通院なし 6.その他( ) |
|  該当の□にレ印を記入し( )内は選択、あるいは詳細を記載してください。 \_\_\_\_\_\_\_\_部は具体的に記述してください。 1 発症と経過 \_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_ 2 末梢血検査所見および理学所見(直近(最近6か月以内)のものを含み、最低2回は必ず記載してください。)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | 診断時 | 　　 | 直　近(6か月以内) |
| 　年　月　日 | 　年　月　日 | 　年　月　日 | 　年　月　日 | 　年　月　日 | 　年　月　日 | 年　　月　　日 |
| ＲＢＣ | （×104/µl) |  |  |  |  |  |  |  |
| Ｈｂ | （ｇ/ｄｌ）　 |  |  |  |  |  |  |  |
| Ｈｔ | （％） |  |  |  |  |  |  |  |
| Ｒｅｔ | （‰)　 |  |  |  |  |  |  |  |
| ＷＢＣ | （/µl) |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 芽　球（％) |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 好中球（％) |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 好酸球（％） |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 好塩基（％） |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 単　球（％） |  |  |  |  |  |  |  |
|  | リンパ球（％） |  |  |  |  |  |  |  |
| Ｐｌｔ | （×104/µl)　 |  |  |  |  |  |  |  |
| LD（LDH）　(IU/L) |  |  |  |  |  |  |  |
| LD（LDH）の増加 | 有・無 | 有・無 | 有・無 | 有・無 | 有・無 | 有・無 | 有・無 |
| 赤芽球又は骨髄芽球 | 有・無 | 有・無 | 有・無 | 有・無 | 有・無 | 有・無 | 有・無 |
| 触知可能な脾腫 | 有・無 | 有・無 | 有・無 | 有・無 | 有・無 | 有・無 | 有・無 |

 ＮＡＰscore　　　　　　　　　　　　　　　　　（検査日：　　　年　　　月　　　日）　 　 3 骨髄検査所見　**(必ず記入)**( 穿刺　・　生検 ) （検査日：　　　年　　　月　　　日）骨髄組織所見 : 骨髄線維化のグレード分類(WHO2016) ( MＦ－０・ＭＦー１・ＭＦー２・ＭＦ－３ )脂肪量 ( 多 ・ 普通 ・ 少 ) dry tap ( 有 ・ 無 )有核細胞数\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_＿＿＿＿/µl 骨髄細胞数の増加( 有 ・ 無 )　Ｍ/Ｅ比＿＿＿＿＿＿巨核球数　　　　　　　/µl　巨核球の増加 ( 有 ・ 無 ) 巨核球の異形成 ( 有 ・ 無 )顆粒球系\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_% 顆粒球系細胞の増加 ( 有 ・ 無 )　リンパ球系\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_%赤芽球系\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_%　 赤芽球系の抑制 ( 有 ・ 無 )　網内系(形質) \_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_%判定不能細胞　\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_%　　幼若芽球\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_% 4 画像所見腹部CT ( 施行 ・ 未施行 ) 施行→肝脾腫( 有 ・ 無 ) 有の場合→(　　　年　　　月　　　日）所見　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　MRI ( 施行 ・ 未施行 ) 施行→骨髄線維化( 有 ・ 無 ) 有の場合→(　　　年　　　月　　　日）所見 X-P ( 施行 ・ 未施行 ) 施行→骨硬化像　( 有 ・ 無 ) 有の場合→(　　　年　　　月　　　日）所見 　　 5 染色体検査所見染色体検査 ( 施行 ・ 未施行 ) 施行→実施年月日(　　　年　　　月　　　日）、検体( 骨髄 ・ 末梢血 )、複雑核型( 有 ・ 無 )、染色体異常( 有 ・ 無 )染色体異常が有の場合→(該当する異常染色体の□に✔印を記入してください。その他の場合には、内容もご記載ください。)□＋8 □-7/7q- □i(17q) □-5/5q- □12p- □inv(3) □11q23 translocation □その他( ) 6 遺伝子検査所見遺伝子検査( 施行 ・ 未施行 ) 施行→実施年月日(　　　年　　　月　　　日）、遺伝子変異( 有 ・ 無 )遺伝子変異が有の場合→(該当する変異遺伝子の□に✔印を記入してください。その他の場合には内容もご記載ください。)□*JAK2*□*CALR*□*MPL*　 □その他（　　　 　　　　　　） 7 鑑別診断(除外できた疾患には□に✔印を記入してください。除外できない疾患がある場合は、その理由を記載してください。)□BCR-ABL1＋慢性骨髄性白血病□真性多血症□本態性血小板血症□骨髄異形成症候群□その他の骨髄性腫瘍□他の疾患(感染症、自己免疫疾患、慢性炎症、ヘアリー細胞白血病や他のリンパ系腫瘍、転移性腫瘍、　中毒による(慢性)骨髄障害など)による反応性骨髄線維症鑑別できない理由 \_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_ 8 治療内容（直近６か月の治療については、必ず記載してください。)赤血球輸血　　　　 ( 有 ・ 無 ( 頻度 : ))JAK2阻害薬の使用 　( 有 ・ 予定( 時期 : 年 月頃 ) ・ 無)造血細胞移植 ( 有 ・ 予定( 時期 : 年 月頃 ) ・ 無)その他の治療　　　( 有 ( 具体的に : 　　　　　　　　　　 )・ 無) 9 予後分類認定基準の「重症度分類等」の記載を参考に、各項目の有無について、□に✔印を記入してください。全て該当がない場合には、「全て該当なし」の□に✔を記入してください。(予後分類表)評価年月日:　　年　　　月　　　日(記載日前6か月以内で、最も悪い状態での評価を記入してください。)

|  |
| --- |
| 全て該当なし　　　□(スコア合計点　0点) |
| 年齢 ＞ 65歳 | 無 0 □ | 有　1　□ |
| 持続する症状 | 無 0 □ | 有　1　□ |
| Hb ＜ 10g/dL | 無 0 □ | 有　1　□ |
| WBC ＞ 25,000/μL | 無 0 □ | 有　1　□ |
| 末梢血芽球 ≧ 1% | 無 0 □ | 有　1　□ |
| 血小板　＜　10万/μL | 無 0 □ | 有　1　□ |
| 赤血球輸血依存 | 無 0 □ | 有　1　□ |
| 予後不良染色体 | 無 0 □ | 有　1　□ |
| 低リスク : 0中間-1リスク : 1中間-2リスク : 2 又は 3高リスク : ≧ 4 | スコア合計点\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_点 |

※スコア合計点が1点の場合のみ、以下記載してください。経過観察中に中間-2リスク以上への憎悪を示唆する所見が得られ、JAK2阻害薬の使用や造血細胞移植が必要である。　→　( 該当　・　非該当 ) |
| 医療機関名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 医療機関所在地　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　電話番号　　　　（　　　　）医師の氏名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　記載年月日：　　　年　　　月　　　日 |

※次項の認定基準を御確認ください。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　事務処理欄（ここには記入しないでください。）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 受給者番号 |  |  |  |  |  |  |  | 審査 | 入力 |

**原発性骨髄線維症 認定基準**

(診断基準)

以下の１から３までの大項目を全て満たし、かつ、4の小項目から(1)から(5)までのいずれか1項目以上を満たすもの

大項目

 1 異形成のある巨核球の増殖とグレード２あるいはグレード３の細網線維の増生や膠原線維化がある。あるいは、グレード０あ

 るいはグレード１の細網線維の増生に、異形成のある巨核球の増殖、年齢基準を超えた骨髄細胞数の増加、顆粒球系過形成、

 そしてしばしば赤芽球系低形成を伴う(前線維化期PMF)。

 2 BCR-ABL1＋慢性骨髄性白血病、真性多血症、本態性血小板血症、骨髄異形成症候群や、その他の骨髄系腫瘍を除外する。

 3 JAK2、CALR、あるいはMPLの変異が存在する。これらの変異を認めない場合には、他のクローナルマーカー※1が検出

されるか、あるいは他の疾患による反応性骨髄線維症※2を否定することが必要である。

※1 上記の3つの主要なドライバー変異を認めない場合は、ASXL1、EZH2、TET2、IDH1/IDH2、SRSF2、SF3B1などしばしば骨髄線維症に認められる随伴変異の有無を検証することが、クローン性増殖の判定に有用である。

※2 感染症、自己免疫疾患、慢性炎症、ヘアリー細胞白血病や他のリンパ系腫瘍、転移性腫瘍、中毒による(慢性)骨髄障害などがあげられる。

 4 小項目(2回連続して当てはまるもの)

1. 貧血(合併疾患によるものではない)
2. 白血球増多(11,000/μL以上)
3. 触知可能な脾腫
4. 血清LDHの増加
5. 末梢血中に赤芽球、骨髄芽球が出現

(重症度分類等)

以下の「予後分類」に基づく、「リスク分類」により判定した「重症度」が重症となるものを対象とする。

* 予後分類

年齢＞65歳 　　1

持続する症状※1 　　1

Hb ＜ 10g/dL 　1

WBC ＞ 25,000/μL 　1

末梢血芽球 ≧ 1% 　1

血小板　＜　10万/μL 　　1

赤血球輸血依存※2 　1

予後不良染色体※3 　1

※1 10%以上の体重減少、発熱、盗汗

※2 骨髄線維症に関連し、赤血球輸血による加療を要する症候性貧血、又はその既往

※3 複雑核型、あるいは括弧内の染色体異常を1つあるいは2つ含む

 (＋8、-7/7q-、i(17q)、-5/5q-、12p-、inv(3)、11q23 translocation)

* リスク分類(予後分類の該当項目数)

低リスク 0

中間-1リスク 1

中間-2リスク 2又は3

高リスク ≧4

* 重症度

中間-2リスク以上(該当項目数2以上)を重症とする。

ただし、中間-1リスク(該当項目数1) であり、経過観察中に中間-2リスク以上への憎悪を示唆する所見が得られ、JAK2阻害薬の使用や、造血細胞移植が必要となった場合は重症とする。